

学びの連続



ご卒業おめでとうございます。経済学部そして総合大学としての中央大学は、昨年創立百周年を迎え新たな第二世紀への歩みを開始しました。その記念すべき年にご卒業されましたみなさんとひとしおの喜びを分かち合いたいと思います。

今日、新たな門出をされるみなさんに考えていただきたいことが二つあります。一つは、自分は大学で何を身につけたのか。二つめは、これから自分は何をしていくのかということだと思います。

大学を卒業するということは、本人のみならず、ご父母やご親族にとっても喜びです。しかし同時に、社会には大学を卒業しないで働き、生活している人々が多数います。大学の「大衆化」が進み、今日では大学卒業の学士号それ自体希少価値の小さいものとなりました。しかし、4年間の大学生活で何も身につけな

経済学部長

まつまる かずお
松丸 和夫

かったとしたらそこに何の意味がありません。私は、大学卒業生に求められる資質の一つとして、自己分析を客観的におこなない、環境の変化をきちんと認識できる知的能力が大切だと考えます。そして周囲に流されるのではなく、流れを作り出す能力を養ってほしいのです。

大学の外の社会では、みなさんの想像を超える厳しい試練が待ち受けています。しかし、どんなに困難なときでも冷静に事態を分析し、最も合理的な選択ができるためには、ねばり強さが必要です。

さて、このようにいわれて「不安」を感じる人がいたら、それは正常な感性の持ち主であることの証です。大学では身につけ得なかったことを負の財産と考えずに、「だからやるべきことがたくさんある」と前向きに取り組んでいただきたいと思います。人の一生は、学びの連続です。どうかご活躍下さい。